

毎週土曜日 午前 9 時 15 分 ~ 9 時 25 分放送

2011 年 1 月 12 日

午前 9:20 ~ 9:30

CRT 両毛支局にて収録

「応用」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(3) -

開倫塾

塾長 林 明夫

* 「応用」について、CRT 栃木放送「開倫塾の時間」でお話する内容に大幅に加筆をして、お読みになりやすいように QandA の形でまとめてみました。どうか一項目ずつゆっくりお読みになり、御自分の勉強の仕方を考え、それを身につけるときに参考にして下さい。かなり長くなります。

1. はじめに

- (1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2) 今日 1 月 15 日(土)と明日 1 月 16 日(日)は大学入試センター試験が全国各地の受験会場で行われます。受験生の皆様のご健闘を心からお祈り申し上げます。
- (3) さて、社会人も含めて「効果の上がる勉強の仕方」をお話させていただいているこの CRT の「開倫塾の時間」も、おかげさまでこの 3 月で 25 年目を迎えます。記念すべき 25 周年を迎えるのが 2011 年ですので、本年 1 月 1 日の土曜から「開倫塾の時間」の原点に戻り、私がこの番組で 24 年間お話ししてきた、年齢や性別、出身に関係なくだれでも、いつからでも、どんな場所でも学力が身につく勉強の仕方をまとめ上げた「学習の 3 段階理論」をご紹介させていただいております。
- (4) 「学習の 3 段階理論」というのは、学習を「理解」「定着」「応用」の「3 段階」に分け、それぞれにふさわしい勉強の仕方を具体的に考えるものです。本年第 1 回の 1 月 1 日の放送では「第 1 段階」の「理解」、第 2 回の 1 月 8 日には「第 2 段階」の「定着」についてお話ししましたので、本年の第 3 回目である今日 1 月 15 日は「第 3 段階」の「応用」についてお話し致します。

2. 「応用」とは何かを考える

《応用とは》

Q: 「学習の 3 段階理論」の第 3 段階である「応用」とは何ですか。

A: (林明夫。以下略)

- (1) 「応用」とは、「うんなるほど」と一度「よくわかった」つまり「理解」したことを、「音読練

習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」などを繰り返してスミからスミまで正確に「定着」つまり身につけた上で、その身につけた内容を用いて「テストでよい点数を取ること」と「実際の生活で役に立てること」をいうと私は考えます。

(2)「理解」したことを「定着」つまり身につけ、「定着」・身につけたことを用いて「テストでよい点数を取ること」、「実際の生活で役に立てること」が「応用」と私は考えます。

《「理解」「定着」なくして「応用」なし》

Q:「応用」の手前で大切なのは、「理解」したことを「定着」つまり身につけているということですね。

A:(1)その通りです。「定着」つまり「身につける」前に、「定着」させるべき内容を「うんなるほど」と「よくわかる」つまり「理解」しておくことが大切なのも同じです。

(2)テストでよい点数を取りたかったら、テストの対策ばかりしないで、テストに出る内容についてまずは「うんなるほど」とよく「理解」しておくこと。よく「理解」したことは、スミからスミまで正確に身につけておく、「定着」させておくことが大事です。「理解」と「定着」なくして「応用なし」、つまりテストでよい点数を取ることはありません。

(3)まず、このことをよく「理解」して下さいね。「理解」したら、「応用」つまりテストのための勉強に入る前に「定着のための3大練習」を確実に「実行」して、「理解」したことをスミからスミまで正確に身につけて下さいね。これだけは、何が何でも必ずお願いします。

(4)「理解」なくして「定着」なし。「理解」、「定着」なくして「応用」なし。仕事もそうですが、勉強には「手順」が、順序、順番が大切です。

《勉強でも手順、順番は大事》

Q:「勉強でも順番が大切」なのですね。

A:(1)はい。「理解なくして定着なし」、「理解 定着なくして応用なし」です。

(2)仕事をやる時はもちろんですが、人間が一つのことをやる時には「手順」、英語でいうと Process(プロセス)、Procedure(プロセデュア)、「順序」、「順番」が大切です。Aをやったら B、Bをやったら次は C、Cの次は D、Dが終わったら E と、「手順」をものごとを行う前に時間をかけてよく考えること。頭の中で考えたことは紙やノートに書き、それを見ながらさらに考えを深め、もっとよい「手順」を考えて考えて考えること。考え抜くこと。考え抜いてこれ以外にない、だから自分はこうやると「決意」したことをノートや紙に書き、自分を納得させる、つまり自分自身に「理解」させる。その「手順」を忘れないように、何回もジューツと見たり、声を出して読んだり、書いてみてしっかり身につける、つまり「定着」させる。「理解」し「定着」したら、その通りやってみる、つまり「応用」する。

(3)このように、ものごとを成し遂げるには「手順」についての強いこだわりを持つことが大切です。

(4)勉強で成果を出したいのなら、「理解」「定着」「応用」という手順を自分自身で十分納得して身につけ、自由自在に自分のものとして用いることです。

(5)「理解なくして定着なし」、「理解 定着なくして応用なし」。この「手順」、順番だけはしっかり自分のものにして下さいね。

《テストでよい点数を取るには》

Q:「テストでよい点数を取る」ためにはどうしたらよいですか。

A:(1)テストにもいろいろあります。まずは、学校のテストについてお話ししましょうね。

(2)学校で行うテストの中で一番多く行われるのは、その日の授業内容についての「確認テスト」ですから、「確認テスト」でよい点数を取る方法を考えましょう。

「確認テスト」は、その日の内容について授業終了直前か、前回の授業内容について授業開始直後に行われることが多いと思われます。

その日の授業で先生が話したことをよく聞くこと、先生の指示にしたがって積極的に授業に参加することが最も大切です。

授業に積極的に参加して、先生の授業をよく聞き、授業の内容を「理解」すること。「理解」しながら、大切と思われることは授業時間中に少しでも自分の記憶の中にとどめるよう努力をすることです。

授業直後に「確認テスト」がある場合は、「理解」はできても授業内容のすべてを身につける、「定着」させることはなかなか難しいとは思いますが、先生は「確認テスト」直前に何かか時間を下さり、今日やったことを復習するように指示なさる場合が多いでしょうから、たとえ数分でもそのような時間があったら、精神を集中してその日のノートや教科書を全部覚えてしまいましょう。

読むことが難しそうな語句は読む練習をしましょう。書くのが難しそうな語句は書く練習を、計算・問題が難しそうなものは、授業中のノートを見てなぜそのような答え・解答になるのか確かめましょう。

Q:その日の授業の最後に行う「確認テスト」で間違えた問題があったらどうすればよいのですか。

A:(1)その日の授業終了直前に行われた確認テストで間違えた問題があったら、なぜ間違えたのか、その理由をテストが終わった後に自分でよく考えて下さいね。これを「誤答分析(ごとうぶんせき)」といいます。

(2)この「誤答分析」をして、もし「理解」が不足していたのなら、それは一体どのようなことなのか、もう一度「理解」のための取り組みをしましょう。語句の意味がよくわからなければ辞書を引いて調べる。内容がわからなければ教科書や参考書、資料集で調べる。よく「理解」はしているのだが、音読練習や書き取り練習、計算・問題練習が足りないことが原因で間違えたのなら、「定着のための3大練習」を繰り返す。

(3)学校なら授業終了直後の休み時間や放課後の教室や図書室で、開倫塾なら夜10時30分までは自習時間になっているので、その時間を有効に活用して下さいね。

《確認テストで100点を取るには》

Q：次の授業の開始時に「確認テスト」がある場合はどうしたらよいですか。

A：(1)授業直後と違って「確認テスト」のための準備時間があるので、こんなに有難い(ありがたい)ことはありません。

(2)できれば授業のあったその日のうちに、家に帰っていつも勉強する場所で、学校の教室か図書室、学校に自習室があれば自習室で、先生の授業をゆっくりと思い出しながら、学校の教科書や問題集、副教材、ノートをもう一度すべて勉強し直すこと。

(3)自分で勉強し直してみても、語句の意味がわからないものがあれば必ず辞書を引くこと、内容がわからなければ教科書や参考書、ノートなどをもう一度ゆっくり勉強し直すこと。それでもよくわからないところには印(しるし)をつけておいて、次の授業のときに先生に質問すること。

(4)その日の授業中にやった計算や問題もすべてやり直すこと。やり直していてもどうしても解けないものがある場合は、教科書や参考書、ノートをもう一回ゆっくり読み直すこと。それでもわからなければ印をつけておき、次の授業のときに先生に質問すること。学校の先生に質問しにくければ、開倫塾などの学習塾や予備校などの先生に質問すること。

(5)このようにしてその日の授業の内容を十分「理解」した上で、次の授業での確認テストの前までに行うべきことは何か。それは、「定着のための3大練習」でその日の授業内容をスミからスミまで正確に身につけてしまうことです。

「確認テスト」の内容は、「～とは何ですか」、「～を何といいますか」など言葉の意味(定義)に関する問題や「次の計算をなささい」などの計算問題、「別の言い方にするとどうなりますか」などの書き換え問題など、出題傾向は大体いつも同じ場合が多いので、基本的なことを「理解」し、その内容を「定着」するだけで十分です。

コツコツ準備さえすれば必ず100点満点が取れるのが、授業開始直後に行われる前回の授業内容についての「確認テスト」です。

(6)このような形で、学校で先生が毎回の授業ごとに授業内容についての「確認テスト」を行って下さるのには理由があります。それは、今私が御説明したような勉強を次の授業までにしていたほうが、授業内容をより深く「理解」し、「理解」した内容を「定着」することになるからです。前回の授業をよく「理解」し、その内容を「定着」していれば、次の授業の内容が「理解」できる可能性がとて大きくなるからです。

《学校の単元テストや定期テストで100点を取るには》

Q：「学校の単元テスト」や「学校の定期テスト」でよい点数を取るにはどうしたらよいのですか。

A：(1)「単元テスト」というのは、学校の教科書の「章」が終了するごとに行われるテストであることが多いので、そのような意味での「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数を取る方法をお話します。英語など語学の場合は、「課」が終了するごとに行われるテストと考えて下さいね。

- (2)この「単元テスト」の勉強の仕方は、試験範囲が予め示されて行われる学校の「定期テスト」の勉強の仕方とかなり重なりますので、一緒に説明をします。
- (3)「単元テスト」でよい点数を取る方法は、「学習の3段階理論」を活用して勉強すればあまり難しくありません。今までのお話と同じようなものになりますが、我慢して一語一語ゆっくり読んで下さいね。
- (4)「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数、具体的には「100点満点を取る」にはコツがあります。これは、小学校や中学校だけではなく高校でも、また、皆様のほぼ全員が高校卒業後に進学なさる「大学」や「短期大学」「専門学校」でも「単元テスト」や「定期テスト」がありますので、そのときにも役に立ちます。国家試験や資格試験でも役に立ちますよ。今からそれをお話します。しっかり読んで参考にして下さいね。
- (5)「単元テスト」や「定期テスト」は、出題される教材と出題の範囲が明確に決まっています。この教科書やこの副教材、この問題集の「 ページから ページ」までと予め明確に示されるのが、「単元テスト」や「定期テスト」の特色です。
- (6)応用問題として決まったもの以外から出題される場合もありますが、出題者・作問者である先生方も、予め示された教材や範囲を十分に身につけていれば解答できるものを問題として作問し出題することがプロの教師と考えていますので、「出題される教材」と「授業で配付されたプリント」「授業中のノート」を正確に「理解」し、「定着」させておけばよいと考えます。
- (7)今、「授業で配付されたプリント」と「授業中のノート」の大切さをお示しました。「単元テスト」や「定期テスト」には、印刷された「教科書」や「副教材」「問題集」だけでなく、「授業中に先生が使用したプリント」と授業中に先生が説明したり教えて下さった内容をメモしてある「ノート」からも出題されるからです。

《授業で配付されたプリントも大事》

Q:「単元テスト」や「定期テスト」対策として、先生が授業中に配付して下さった「プリント」教材も大事なのですね。

A:(1)その通りです。ですから、「授業中に先生が配付し、授業で使用したプリント」は必ず保存しておくことが大事です。普通、「プリント」には書き込み用の空いているスペースがあり、授業中に空いているスペースに必要なことを書き込ませながら授業を進める場合が多いようです。ですから、プリントに書き込みながら授業を進める授業の場合には、必要なことはどんどん書き込みましょう。

(2)もし、授業中に書き込むことができなかった場合は、授業終了直後に必ず自分の力で必要なことを書き込んでおくことが大事です。どうしても何を書き込んでよいかわからないときには、友人によくお願いして、プリントの空欄を書き写させてもらいましょう。友人にお願いすることが難しければ、学校の先生に質問して教えてもらうこと。学校の先生に教えてもらうことが難しければ、開倫塾の先生に質問して下さいね。

(3)なぜこんなにまでして授業で使ったプリントの空欄をなくしておくことが大切かというと、プリントを授業中に使用する先生は、「単元テスト」や「定期テスト」にプリントから出題する場合がありますからです。

(4)プリントは1枚も紛失することなく、配付された順番通りにきちんとファイルして、保存しておくことも大切です。大切なものは絶対になくさないのも大切な能力です。

《授業中に取ったノートも大事》

Q:「単元テスト」や「定期テスト」対策として、授業中に取ったノートの内容も大切なのですね。

A:(1)はい。その通りです。授業中に取ったノートも「単元テスト」や「定期テスト」のときに驚くほど役に立ちます。

(2)ノートの取り方についてはいろいろな考え方があるでしょうが、私は、大切な学校での授業なので、授業中は先生のお話になったことはすべてノートに書きとどめることが、後々先生の授業を振り返るときにとっても役に立つと信じて疑いません。

(3)学校の先生と呼ばれる方から教えていただくときはもちろんのこと、人様から自分の知らないものごとを教えていただくときには、その方のお許しをいただいてずっとメモを、ノートを取り続けると、後でその先生や教えて下さった方を思い出しながら振り返るときにとっても役に立つ。これが私の実感です。手が痛くなるまでメモを取り続ける、ノートを取り続けることは、私にとってとても大切なことに思われます。

(4)小学校よりは中学校、高校よりは大学や短期大学、専門学校、大学や短期大学、専門学校よりは大学院、学校での勉強や生活よりは社会に出て仕事や社会的な活動、実際の生活をするときのほうが、自分自身の力で必要なことをノートやメモに取る必要性が大きいときが多いと私には思えます。

(5)授業中にノートを取り続けることは、「単元テスト」や「定期テスト」の出題範囲について、学校の先生の授業を振り返り、思い出し、「理解」を深めるにはとても役に立ちます。

(6)ただ大切なのは、ノートを自分が後々勉強しやすいように整理することです。「ノート整理」ですね。この「ノート整理」が上手な人は「学力」が高いといわれるほど、「ノート整理」は大切です。

《ノート整理のコツとは》

Q:ノート整理のコツは何ですか。

A:(1)「定着」のときにもお話ししましたが、教えていただいたときの様子が思い出しやすいように、自分で読みやすいように、後で自分で勉強しやすいように、覚えやすいように、「定着」しやすいように工夫して「整理」することです。

(2)項目分けをしたり、線で囲んだり、マーカーを引いたり、図解したり、後で調べたことを書

き込んだり、ページをつけたりと、やることはたくさんあります。

(3)できるだけ見やすい、また、美しいノートを自分自身の手で作り上げ、せっかく作り上げたノートですから、スミからスミまで覚える、身につけることが、「単元テスト」や「定期テスト」でよい点、100点数を取るのに役立ちます。

《単元テストや定期テストで100点を取るための教科書の勉強方法とは》

Q:「単元テスト」や「定期テスト」で100点を取るために、教科書はどのように勉強したらよいのですか。

A:(1)教科書の出題範囲(ページから ページまで)に出ていることはスミからスミまで一語残らず、その意味、内容を「理解」した上で、スミからスミまで正確に身につけること、「定着」させることです。

(2)教科書は本文だけでなく、欄外(らんがい)の「注(ちゅう)」や「説明」として「小さな文字」で書いてあることも見逃すことなく、すべてその「意味」や「内容」を「理解」する。

(3)その後「音読練習」と「書き取り練習」を最低でも6回は繰り返して、すべて「正確に身につける」(「定着」させる)こと。6回が大事です。

《問題集の勉強の仕方とは》

Q:「単元テスト」や「定期テスト」で100点を取るために、「教科書」の中にある「計算や問題」と、学校で使用している「問題集」の「計算や問題」はどのように勉強したらよいですか。

A:(1)「試験範囲」のものは、「全問」すべて自分の力でもう1回ノートに書き直すことが大事です。

(2)できない問題がなぜできないか、その原因を自分で分析する。「いくら考えてもできない問題」か、「うっかりミス(ケアレスミス)でできなかった問題」かに分ける。これを「誤答分析(ごとうぶんせき)」といいます。

(3)いくら考えてもできないのは「理解」不足かもしれないので、もう一度、「教科書」や「参考書」だけではなく、「辞書」まで活用して、「そうか、これはこのようなことだったのか」と「うなるほど」と「納得できる」まで勉強する。どうしてもわからなければ、学校や開倫塾の先生に質問することが、ここでも大事。

(4)よく「理解」していてもうっかりミス、ケアレスミスした計算や問題は、「うる覚え」「練習不足」が原因なので、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」でしっかり身につける。

(5)このようにして、教科書に出ているすべての「計算や問題」、学校で使用している問題集の「計算や問題」がすべて「理解」できたら、テスト範囲について前から順に「計算・問題練習」を6回繰り返す。6回が大事です。

(6)これで、「単元テスト」と「定期テスト」でよい点数、100点満点が取れます。

《実技4科の定期テストで100点満点を取るには》

Q：全科目、この方法でよいのですか。

A：(1)もちろんです。

(2)音楽や技術・家庭、保健体育、美術などは、「単元テスト」や「定期テスト」のテスト範囲の内容について実際に演奏したり、ものをつくったり、身体を動かしたり、創作をすることも大切と考えます。

(3)楽器が演奏できる人は、テスト範囲の曲を音楽の教科書を見ながら自分で少しでも演奏してみましょう。教科書の楽譜を見て楽器が演奏できたり、歌を歌えることは素晴らしいことです。

(4)技術・家庭の教科書に出てくるものもどんどんつくってみましょう。生活する上で役に立ちますよ。

(5)保健体育ほど、健康な生活をするのに、また、スポーツをする上で役立つものはありません。スミからスミまで全部「理解」した上でしっかり身につけましょう。

(6)美術の教科書に基づく創作活動や鑑賞活動は、人生を豊かに幅広くします。どんどんやってみましょう。

(7)これらの科目も積極的に取り組み、「理解」「定着」の上でテスト対策をバッチリすれば、「単元テスト」や「定期テスト」で全科目ともよい点数、100点満点が取れます。頑張ってくださいね。

《学年末テストでよい点数を取るには》

Q：学校の「定期テスト」の最後には、「学年末テスト」があります。「学年末テスト」ではどのようにしてよい点数、できれば100点満点を取ったらよいのですか。

A：(1)「定期テスト」の最後として「学年末テスト」は何のためにあるのか、もっといえば、テストは何のためにあるのか、たまにはじっくりと腰を落ち着けてよく考えてみましょう。

(2)私は、「学年末テスト」は1年間の勉強を「定着」させるためにあると考えます。

(3)「学年末テスト」のテスト範囲は、「学年末テスト」の直前の「定期テスト」の後に勉強した範囲に限られず、その学年で4月から今までに勉強した範囲である場合が多いようです。

(4)何のために1年分の範囲で「学年末テスト」が出題されるかといえば、この「学年末テスト」の準備の勉強を通じて、その学年で勉強したことのすべてを「理解」し、しっかり「定着」、身につけた上で、次の学年に進級するためといえます。

- (5) このように、すべての「テスト」はそれまでの勉強をもう一度よく「理解」し、それを「定着」させるためにあると考えることが「ポジティブ・シンキング」、テストについての積極的な考え方だと思います。
- (6) 学校で学ぶ者として、「テスト」は避けられません。「テスト」を受けずに学校生活を送ることはできないのですから、「テスト」から逃げるのではなく、「テスト」を積極的に活用して学力をバッチリ身につけることを私はお勧めします。
- (7) 「学年末テスト」に向けてしっかり勉強する。特に、中学2年生、高校2年生は4月からその学校の最終学年となり、受験勉強に突入するのですから、1、2年生の内容は「学年末テスト」までにしっかり「理解」し、「定着」させる。3年生になったら、1、2年生の復習をしなくても済むようにしておくことが大事です。
- (8) 1年生、2年生の内容も入学試験に出題されるのですから、それらの内容については入学試験に合格するまでレベルを上げておきましょう。遠慮しないで、1、2年の範囲についても入試問題に挑戦することも大事です。

《「学校の実力テスト」でよい点を取るには》

Q：「学校の実力テスト」でよい点数を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1) 学校の実力の特色は、テスト範囲はや出題される教材が「単元テスト」や「定期テスト」のように特定されていないということです。

(2) 但(ただ)し、特定されていないとはいっても学校で行うテストですから授業で教えていない範囲からは出題されることは少ないでしょうし、学校の教科書や教材、問題集のレベルを超えた難しい内容が出題されることも少ないと思われます。

(3) ですから、「学校の実力テスト」は今までに授業で勉強した範囲から出題され、そのレベルは学校の教科書や教材、問題集のレベルと考えてよいと私は思います。

(4) そう考えれば、「学校の実力テスト」の実施の日までにやることは自ずと決まってきますね。その学校に入学してから今までに勉強してきたことを試験範囲と考えればわかりやすいと思います。今1年生なら4月から今までに勉強してきたところ、2年生なら1年生の4月から今までに勉強してきたところ、3年生なら1年生の4月から今までに勉強してきたところを実力テストの範囲と考える。

(5) 実力テストのレベルは学校の教科書や教材、問題集のレベルなので、用いるべきは、学校の教科書、教材、問題集と授業中のノートとする。

(6) 以上をテスト範囲、用いる教材として、出題科目についてテストの日まで1～2か月かけて最大の準備をして下さい。必ずよい点数が取れます。

(7)「確認テスト」や「単元テスト」、「定期テスト」の内容ばかりなので、その復習だと思って
どんどん勉強してみましょう。

(8) 「確認テスト」で勉強し足りなかったところを「単元テスト」の勉強で補い完全にする。
「単元テスト」で勉強し足りなかったところを「定期テスト」の勉強で補い完全にする。
「定期テスト」で勉強し足りなかったところを「学年末テスト」の勉強で補い完全にする。
「学年末テスト」で勉強し足りなかったところを、この「実力テスト」の勉強で補い完全
にする。

この先のお話をするならば、「学年末テスト」で勉強し足りなかったところを、「受験学年
の模擬テスト」で補い完全にする。

そして、理想をいえば、「模擬テスト」で足りなかった勉強を、本番の「入学試験」まで
に補い完全にして入試に臨む。

「入学試験」までに足りなかった勉強を、「希望校の入学式」までに補い完全にしてから
入学する。

(9)学校の「実力テスト」を活用して、このような流れ(Stream ストリーム)を1日も早く作り
出すことが大切かと思えます。

《「学校の実力テスト」が終わったあとは》

Q:「学校の実力テスト」が終わったあとは、どのようにしたらよいのでしょうか。

A:

Q:「学校の実力テスト」の準備として「予想問題」のようなものを行ったほうがよいのでしょうか。

A:(1)学校の教科書の単元の最後や教科書の最後に出ている単元、その学年のまとめ問題はお勧め
です。学校の問題集の各単元の最後のまとめ問題やその学年のまとめ問題もお勧めです。

(2)開倫塾のテキストや問題集の各単元の最後のまとめ問題やその学年のまとめ問題もお勧めで
す。

(3)本屋さんで売っている各学年や単元のまとめ教材、まとめ問題集も役に立ちます。

(4)本格的な受験勉強に入る前は、この「実力テスト」を活用して、今の学年までの勉強を1科
目でも多く完成の域にまで近づけておくことを私は強くお勧めします。

Q:模擬試験は何のためにあるのですか。模擬試験は入学試験に役に立つのですか。

A:(1)入学試験までに1回も予行練習のための模擬試験を受けないで本番の入学試験をいきなり受

けるよりは、入試の1年くらい前から計画的に模擬試験を受けることを私はお勧めします。

(2) 模擬試験での勉強を通して入学試験までに合格できるだけの実力を備えることがよいと私は考えます。

(3) あらゆるテストや試験には教育的な意味があります。この入学試験の準備のための「模擬試験」にも意味がありますので、まずはそれをよく「理解」すること、よく「理解」した上で「模擬試験」を積極的に御活用なさることが大事と考えます。

(4) 本番の入学試験の前に、受験学年になると皆が受験する偏差値の出る模擬試験の活用の仕方をお話いたします。

(5) 模擬試験では試験が終了する事ことに何のために偏差値が出されるかといえば、進学を希望する学校の合格可能性を知るためといえます。その学校に合格できるだけの偏差値がいつも取れていれば合格可能性は高く、そうでなければ低いといえます。だから、受験生は、自分が進学を希望する学校に合格できるだけの偏差値を取ることを目指して勉強に励むのです。

(6) 模擬試験の偏差値は高ければ高いほど入学試験に合格できる学校は多いといえます。進学する学校を選ぶときの選択肢(せんたくし)が増えるといえます。学校選びも人生の選択肢の1つだと考えれば、人生の選択肢を増やしたければ模擬試験でよい偏差値を取ることは欠かせないともいえます。

(7) 模擬試験は何のためにあるかと問われれば、入学試験までに自分の希望する学校に合格するだけの学力をしっかりと身につけるためにあると私は考えます。偏差値は初めは余りよくなくても、模擬試験で得意科目や得意分野、不得意科目や不得意分野を自分自身で良く知り、つまり「自覚」をして、得意なところはどんどん伸ばし、不得意なところは基礎からやり直す。受験生としての自覚を持って希望する学校に合格するだけの実力を確保することが大切です。

(8) このような方法で、模擬試験を通じて自分の行きたい学校に合格するだけの実力を備えることは、入学試験の合格に直結しますので、模擬試験と入学試験は大いに関係があるといえます。

Q：模擬試験でよい偏差値を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1) その模擬試験のその時期に過去に出題された問題、いわゆる「過去問」5年分を実際に解いてみる、じっくり研究をしてみることをお勧めします。

それも、1回だけではなく、同じ「過去問」を5回～6回やり直してやることをお勧めします。この方法が最も効果的です。

(2) 模擬試験は年間スケジュールが予め決まっていますので、1つ1つの模擬試験の日程を入手し、いつあるのかをまずは「理解」。日程表をコンビニ等で縮小コピーして「手帳」や「ノート」、机の前にはりつけること。その日程表をいつも見ながら作戦を立てることが大切です。

(3)できれば、1つの模試が終了したその直後、その日から次の模試の準備をすることをお勧めします。

Q：模擬試験が終わった日の過ごし方を教えてください。

A：(1)模試が終わったら、その日のうちに模試の解答集を用いて1問1問正解したかをチェック。なぜこの問題ができて、その問題ができなかったかを自分の手で確認して下さい。

(2)解答できなかつたり、解答はしたが間違えた問題については、なぜその問題に手が付けられなかったのか、解答はしたが間違えたのかの原因を自分の力でよく考える。これを「誤答分析」といいます。

(3)よく考えて、その原因が「理解」不足だったら、教科書や参考書、授業中に取ったノート、辞書などを活用して「うんなるほど」と「理解」できるまで調べる。それでもわからなかったら、学校や開倫塾の先生に質問することが大切です。

(4)「理解」はしていたが細かいところまで正確に覚えていない、正確に書けない、計算や問題練習が不足していたなどの理由で間違えた場合には、「定着のための3大練習」を繰り返す。

(5)ここまで自分で勉強してから、もう一度、その日にやった模擬試験の問題を全部やり直すこと。そして、二度と同じ誤りを繰り返さないまでにすること。このように「誤答分析」を活用することが大事です。

Q：模擬試験の「過去問」5年分も同じようにやればよいのですか。

A：(1)その通りです。次の模擬試験までに、まずは「過去問」を1年分行い「誤答分析」をする。科目別・分野別に「理解」不足、「定着」不足のところを探し、それを補うための勉強を自分でする。

(2)それが終わったら、同じ問題をもう一回やってみる。

(3)次に、もう1年分を同じようにやってみる。やり終えたら、その問題をもう一回やってみる。

(4)これを繰り返すと、あっという間に5～6年分を5～6回やり終えてしまいます。

(5)最後は、問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るようになります。ここまでくれば、誰でも偏差値は50、60を当然突破し、70以上にもなります。

(6)受験勉強に頭がよい、よくないは全く関係ありません。要は、やったか、やらなかったかだけです。時間とエネルギーはかかりますが、また、他にもやり方はあるでしょうが、高い偏差値が取りたかったら、例えばこのような方法でやればよい。ただ、それだけです。

(7)「模擬試験」についてもその時期に出た「問題5～6年分を知り尽くす」こと。「理解」で

きていないことは基礎から勉強し直し、しっかり「理解」する。よく身につけていない、「定着」していないところは、「定着のための 3 大練習」を徹底的に行いスミからスミまで正確に身につける。そして、同じ過ちを繰り返さないこと。

Q：入学試験で合格点を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1)入学試験で出題された問題(過去問)を少なくとも 5～6 年分は全部自分でやってみること。
同じ問題を 5～6 回やり直すこと。

(2)2011 年なら今日と明日、1 月 15・16 日に行われる「大学入試センター試験」の場合は、「過去問」15 年分以上を「追試問題」を含めすべて同じ問題を各 5～6 回自分で解くことが最も有効な方法です。

大学入試センター試験対策はその年のセンター試験が終了したらすぐにスタートし、1 年間かけて行うことが望ましいと考えます。

(3)どのような入学試験も、入試 1 年前から一瞬も気を抜くことなく一心不乱に合格に向けて「理解」「定着」「応用」をはかることが大事です。

(4)入学試験で合格点を取る、入学を勝ち取るにはこのようにして学力を身につけることが大切ですが、このほかにもたくさんありますので、別の機会にお伝え致します。お楽しみに。

Q：「応用」には「試験でよい点数を取る」や「合格点を取る」だけではなく、「社会で役立つ」もあるようですね。

A：はい。少し長くなりましたので、またの機会にお話しさせていただきます。
今回はこれでおしまい。長い文章を読んでいただき有り難うございました。

感謝

2011 年 1 月 9 日記